

### アフターミッドナイト⑬ 「世界へのステップ」 ——上野宏介

さて、一ヶ月の御無沙汰ですが、今月は色々書く事があります。まず、このコラムを毎月読んでらっしゃる方は御存知だと思いますが(そういう人が多くいてほしいですね)、私は、アサCHAN(スカパ)のコンガに絵を描くよう頼まれていて、かれこれ一年近くも待たした末、やっと描き上げたのです。待たした自分にも呆れますが、待たしたアサCHANも偉いもんです。描き上がったと連絡した日、私は頭痛がして体調悪く、早目に休みたかったのですが、アサCHANはさすがに、すぐ取りに行くと言って譲りません。まあ、一年近くも待ってもらったんだし頭痛位なんのそのと、夜中の12時まで彼が取りに来るのを待ちました。でも仕上がりには喜んでくれたようでした。コンガの写真は次号にでも紹介できたらと思っています。

に先がけ監督が来日したのです。来日の少し前に、配給元のヘラルドエースの人と私は知り合いになり、私がアルモドバルファンということで大いに話が盛り上がり、記者会見とウエルカムパーティーに招待してくれたのです。パーティーは、わずかに40分位のもので、その間アルモドバルがいたのは20分程でした。パーティーで遠まきに彼を見ていた私を、ラッキーな事にヘラルドの人が紹介してくれたのです。これはチャンスとばかりに、私は持っていた作品集とポストカードを彼に渡しました。なんと彼は、私の作品集を「ページ、じつくり見てくれ、非常に気に入ってくれたのです。『日本にこういう絵を描く人がいるとは思わなかった』(英語で話していました)」とも言ってくれました。記者会見の時彼が、日本人は、はっきり物を言わないが、スペインではストレートに物を言うのだ、と言ったので、私

は彼の言葉を信じる事にしました。その上、今度展覧会でもある時は知らせてほしいと、わざわざ自筆でマドリッドの住所を教えてくださいました。私は、世界的な有名人と会うのは初めてだったので、その日一日夢見心地で過ごしました。おまけに、「ハイヒール」のパンフレットに文章を書く事にもなりました。皆さんも是非観に行ってくださいね。この「ハイヒール」という映画

は、母と娘の愛憎を扱った内容で、音楽は坂本龍一、衣裳は、母親役がアルマーニ、その娘はシヤネル、昔母の恋人で、今は娘の夫の愛人がシビラと話題も満載です。主題曲を弘田三枝子がカバーするという話もあります。さて、話しはコロツと変わりますが、最近カチャトラの常連の間で将棋が少し流行っているようです。私は子供の頃少しやった事があり、駒の並べ方と動かし方を知っている程度ですが、皆と

話していると、ある者は、小学校の時将棋クラブだったのだ、段持ちだ、という輩が次々に出てきてもう大変、そんな中の一人、リスキンのドラマー「ブライアン」は、子供の頃将棋クラブに入っていて、中原名人の講演にも通っていたそう、彼曰く、「上野さんなら30分で負かしてしまいますよ。」だって、これは売り言葉に買い言葉とばかりに私は、「じゃあ、もし俺が勝ったら丸坊主にするか?」と言ったところ、やりましょうという事になりました。そして決戦の日、カチャトラ閉店後のカウンターで2人の勝負は始まりました。ちなみに、私が負けた場合、彼にビールをおごる事になっていました。心なしか緊張気味のブライアン、対する私はリラックス。これが勝敗を分けたのが、私は見事な勝ちをおさめたのです。ブライアンは、明日はデートだの何だかと半泣きになりながらも、カチャトラのマスターの手で坊主にされてしまいました。その後、彼から将棋の話題が出る事はなくなりました。

さて、もう一つのビッグ・ニュースですが、私は以前、最近気になる映画監督に、スペインの「ペドロ・アルモドバル」を挙げていましたが、その彼の新作「ハイヒール」が、「アタメ」に続き、今年の暮れからの正月映画として日本で公開される事になったのです。そして、それ



筆者の作品集に興味深げに見入るアルモドバルと筆者

「フロワイール」京都生まれのアーティスト。大きい壁に描くのも大好き。自らのバンド「東京リズム・シンクス」も6月21日に「ブガルー・ファイバー」というミニアルバムをアポロンより発売。(定価¥2,000)7月21日はアナログレコードも発売される。